

## 第60回北海道高等学校登山選手権大会講評

2021 6.25

### ①体力

1日目15点 2日目15点

男子

1日目 全装：練習が思うようにできなかったことも原因と考えられるが、パッキングがしっかりとできていないパーティーがあり、またパーティーによってザックの大きさがだいぶ異なっていた。それによって消耗の大きさが変わるため、荷物の精選を含めた計画段階からの準備や、パッキングの練習が必要である。

2日目 ほとんどのパーティーが隊長から離れることなく歩けており、大きな差がなく、元気でよかった。

女子

1日目 サブザック行動のチームは6割の持ち点ということで、9点からの減点で審査しています。慣れない全装でしたが、声かけなど協力して行動しているチームが多かったです。全体的な遅れに関して減点しています。

2日目 全チームがサブ行動でしたので、15点からの減点で審査しました。目標の1つであった旭岳には行けませんでした。隊から遅れることなく行動できたチームが多かったです。

練習できているところとそうでないところの差が大きかった。

### ②歩行

1日目10点 2日目10点

男子 しっかりと歩けているパーティーが多かったが、雪上歩行、岩場の歩き方(特に下り)の技術差が見られた。体力差とも連動しており、疲労によるものもあると思われるので、ぜひ練習を重ねてほしい。

女子

1日目の雪渓歩行審査は、最初のチームと後半のチームでは雪の条件などがだいぶ違っていたので、最終的に審査の対象にしませんでした。しかし、雪渓を歩き慣れていないチームが多いと感じました。北海道は1年を通して雪渓がありますので、今後の山行などで経験を積んでください。

2日目は前日より雪渓の上をスムーズに歩けていると感じました。今回の大会を通して歩行技術の上達を感じました。

### ③装備

共同装備のツェルト、修理用具、湯沸かし道具(コンロ、燃料、金属食器)は毎回のように出されています。個人装備については、ほとんどそろっていましたが、ヘッドランプの絶縁がされていないところがありました。

ラジオに関しては、音が鳴らないものや、操作方法を理解していないチームがありました。ホイッスルの音をちゃんと出せていない等、ただザックに入れるだけでなく、事前に道具の状態や使い方の確認を行い、いざというときに困らないようにしましょう。

雨具・防寒具がなかったり、不備な選手がいた。天候が急変すると生死に関わることもある。指導を徹底すべきである。

チェック品目はすべて『採点基準』の備考欄から出されています。今一度確認しておいてください。

### ④設営・撤収

時間内に未完成テントがあった。また、設営後に道具を持っているパーティーがあった。

テントとポールが合っていないと、いびつな形となります。事前に確認して持っていきましょう。

ペグの位置がよくない(張りすぎ、緩い、ファスナーが開きづらい)

荷物がテントに寄りかかっている(雨天時に、本体とフライが接していると濡れます) 出発時にフライが開いている、貼り綱がたるんでいるパーティーがあった。

### ⑤炊事

各グループよく工夫されていた。

計画書に記載していると材料や、ガス缶の量が異なるパーティーがあった。防腐のために材料を缶詰などに変更したパーティーもあったが、計画段階で吟味、工夫ができるとさらによいであろう。

大きなサラダ油をそのまま持ってきている。全装の際それを持ち歩けるのか?軽量化、必要な量、適切な量にしぼることも登山においては大事なポイントである。

調理中にゴミが散乱しているパーティーがあった。

### ⑥気象

登山大会での審査は通報データを審査員にもれなくわかりやすく伝えるよう意識し天気図を描いてください。各紙の天気や高・低気圧、前線、放送等圧線の2.2点は確実に書き取れるようにしましょう。等圧線解析・描画は、出来不出来の差がおおきくなり、点数に開きが出ます。気象庁の天気図と改めて確認してみてください。

本年度より、実況解説、予報を選択問題としましたが、点数は低めでした。しっかりと根拠を持って翌日の天気を予報できるようになりましょう。

## ⑦計画・記録

### 計画書

紙面の量は B4 版 3 枚まで 24 頁程度となる。多いと減点です。

非常食が書かれていないものがあつた。1000Kcal が目安。

断面図に方向、スケールが書かれていないものがあつた。

記録書 採点項目は別紙 「記録書採点の観点」を参照

よくできている記録書は、行程がしっかり読み取れる。植生もよく書かれていた。

今後の登山計画の役に立つ、利用できる観点（テントサイトについて等）が有るとよい。

書きすぎると頁が足りなくなる。

歩き始める前に書いているパーティーがあつた。記録はその場で行うものである。

また、生徒に配布する前に、もう少し具体的に記入方法を指導すべきであつた。

## ⑧行動中テスト

男子 マニアックなものは避け、植生・地図読み・山座同定に関して基本を問うものを中心に  
出題した。概ねよくできていた。特に、地元でないチームで正答率の高いところが  
あつたのは特筆に値する。積雪期ホワイトアウト時を想定したコンパスの使用  
方法に関しても、16 方位での正答は多かつた。コンパスで進むべき方向を確認して歩  
行するのは、山でないといけないので、ぜひ山行時に練習してほしい。

女子 現在地確認、方位確認、地図記号、用語、植物の出題をした。

地図読みができていない。登山口がわからない、現在地がわからない（登山道上で  
すらない）、山座同定ができていない。普段から、地図読みの練習をすること！

## ⑨ペーパーテスト

しっかり登山部報で勉強しているパーティーは得点できていた。勉強不足のパーティー  
と得点差が大きくなる出題であつた。

## ⑩パーティーシップマナー

テント忘れ、行動中に腕章が無い、記録書を落とした、等で減点

パーティー内で声を掛け合い大変よかつた。

チーム 4 人がばらけてしまう。集合時間に遅れるパーティーがあつた。

最後に、北海道代表となつた旭川東高校(男)、旭川北高校(女)の選手の皆さんは、思う  
存分力を発揮すると同時に本州の山を楽しんで登ってきてほしいと思います。

準備の段階からご尽力いただいた旭川北高校の皆さんに改めてお礼申し上げます。

(文責 審査委員長 木村宣幸)